

まとめ

疫学や毒性学の知見によると、胎児期・授乳期のダイオキシンへの曝露により、悪影響が次世代に引き起こされる可能性がある。また、ヒトや野生生物は、様々な化学物質に同時に曝露していることから、それらの影響も考慮する必要がある。

ダイオキシン毒性に関する研究に基づいて設定された環境基準によって、環境中に放出されるダイオキシンを減らすことができた。この放出の削減は、ダイオキシンの食物連鎖を介した食品への蓄積の減少につながる。

生物という天賦のシステムについて、私たちは知っていることより知らないことのほうが遙かに多い。今後も、化学物質の次世代影響を研究することが重要だ。